

教育・研究等業績一覧

履 歴						
フリガナ	ヒラオ マサユキ			所 属	農学ビジネス学科	
氏 名	平 尾 政 幸				身 分	准教授
学 歴						
年 月	事 項					
1985年3月	早稲田大学 社会科学部 社会科学科 卒業					
1988年4月	早稲田大学大学院 文学研究科 英文学専攻 修士課程 入学					
1990年3月	早稲田大学大学院 文学研究科 英文学専攻 修士課程 修了 文学修士					
1999年12月	ハイデルバーグ大学大学院 教育学専攻 修士課程 入学 (Japan campus, Sapporo)					
2004年12月	ハイデルバーグ大学大学院 教育学専攻 修士課程 修了 (Masters of Arts in Education)					
職 歴						
年 月	事 項					
1985年2月	マーシュ・アンド・マクレナン・ジャパン 入社 (1985年8月退社)					
1993年4月	拓殖大学北海道短期大学 農業経済科 専任講師 採用					
1999年4月	拓殖大学北海道短期大学 農業経済科 助教授					
2000年4月	拓殖大学北海道短期大学 経営経済科 (学科名改称) 助教授					
2007年4月	拓殖大学北海道短期大学 経営経済科 准教授 (職位名改称) 現在に至る					
教 育 業 績						
1 担当授業科目 (2024年度)						
科 目 名		出講場所	期別	曜日	時限	備 考
英語コミュニケーションⅠ (1年生)		202教室	前期	月	2	
英語コミュニケーションⅢ (2年生)		202教室	前期	水	1	
総合英語Ⅰ (1年生)		202教室	前期	水	4	
総合英語Ⅲ (2年生)		202教室	前期	木	2	
2年ゼミナール		202教室	前期	木	4	
食プロジェクトA		102教室	前期	火	—	(学内授業:6/18, 7/16)
実用英語Ⅲ		202教室	前期	木	3	国際学部農業総合コース
英語コミュニケーションⅡ (1年生)		202教室	後期	月	2	
英語コミュニケーションⅣ (2年生)		203教室	後期	火	1	
総合英語Ⅱ (1年生)		202教室	後期	水	4	
総合英語Ⅳ (2年生)		202教室	後期	木	2	
食プロジェクトA		102教室	後期	火	—	(学内授業:9/24)
2年ゼミナール		202教室	後期	木	4	
実用英語Ⅳ		102教室	後期	月	3	国際学部農業総合コース

2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価 (記述式：900字以内)	1) 現行授業の目標と教育効果 現行授業の目標は学生に規則正しい学習の習慣を身に付けさせることに重点をおいている。特に語学の場合この点が重要になる。そのために、学期の途中においてもある一定の範囲の学習を終えた時には、小テストを実施し学生にまとめの意識を持たせている。 授業の内容としては、はじめに各授業の核になる項目についての提示を行う。そしてそれに関する導入を行い、続いてそれに関する基本的な問題について学習し、さらには発展的な学習を行うようにしている。常に心がけていることは、授業中に学習した内容と実際の生活の中で出てくる事柄とに関連性を持たせ、また実生活の中で授業中に学習して得た知識が生かされるようにしていることである。すなわち教室内で学習した内容は実生活でも大いに関わりがあるということである。 学生への学習を容易にするための方策としては、授業中のみならず自宅学習の際にも理解が容易になるように工夫している。そのために講義内容や教科書の内容を適宜、英語クラスのグループラインに配信して授業中に課題を与えて書き込めるようにして授業を行っている。 2) 自己評価 授業の目標としての学習の規則性については大半の学生が年度末にはある程度の達成をさせている。しかしながら数人の学生は欠席過多であり、目標が達成されていない。このために特に年度始めの導入時の教育に更に工夫を検討するべきであると考えている。																						
3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み (記述式：900字以内)	1) 現状の説明 平成19年度までは、英語では能力別クラス編成を行ってこなかった。しかし、平成19年度は、若干、英語の能力が上昇ため、上位層にとっては、若干、授業がやさしすぎるという結果20年度から能力別にクラスを編成した。4月に実力テストを行い、能力別クラス編成を行い、それを継続している。尚、平成27年度からは、教材について上位クラスでは、追加をすることにしてきた。しかしながら、令和4年度からは、1年次、2年次について入学者人数に対応し、1クラスで1年次、2年次について英語科目について授業を運営している。 2) 改善への取り組み クラスの状況を知るためにも後期成績を提出後に。授業評価アンケートを利用し、改善点をまとめている。内容としては(1)現在の各クラスの現状及び問題点(2)改善策を検討するなどである。																						
4 教科書、教材の作成状況	教科書として1993年に「総合英語へのマルチアクセス」、1997年に「現代を読む総合英語」を作成し過去に前者を授業に使用した。但し平成14年度以降は市販の教科書を使用している。2008年度には、学内のe-learningのサイトに担当科目の補助教材を掲載した。																						
5 学生の指導(課外活動・厚生補導等) (主要10件以内)	<table border="1"> <tr> <td>1993年度～現在に至る</td><td>TOEFL、TOEIC、英語検定の受験者に対する指導</td></tr> <tr> <td>1997年度～1998年度、2021年度、2022年度</td><td>処分学生の指導</td></tr> <tr> <td>1998年度～1999年度</td><td>剣道部顧問(1997年度～1998年度は剣道同好会顧問)</td></tr> <tr> <td>1999年度夏季</td><td>カナダ、フレイザーバレー州立大学への海外研修 指導・引率</td></tr> <tr> <td>2001年度～2005年度</td><td>フットサル部顧問(2000年度～2001年度はフットサル同好会顧問)</td></tr> <tr> <td>2005年度～2006年度</td><td>バスケットボール部顧問</td></tr> <tr> <td>2006年度～2008年度</td><td>英語検定部顧問(2005年～2006年は英検同好会顧問)</td></tr> <tr> <td>2009年度～現在に至る(現在休部)</td><td>英語・日本語検定部顧問(旧英語研究会顧問：'93年度～'96年度)</td></tr> <tr> <td>2008年度～2010年度</td><td>海外研修(ガム インターンシップ)の事前研修(英語)と手続き</td></tr> <tr> <td>2011年度、2015年度～2018年度</td><td>海外研修の事前研修(英語研修)</td></tr> <tr> <td>2014年度～2018年度</td><td>海外研修の事前研修(危機管理講座)</td></tr> </table>	1993年度～現在に至る	TOEFL、TOEIC、英語検定の受験者に対する指導	1997年度～1998年度、2021年度、2022年度	処分学生の指導	1998年度～1999年度	剣道部顧問(1997年度～1998年度は剣道同好会顧問)	1999年度夏季	カナダ、フレイザーバレー州立大学への海外研修 指導・引率	2001年度～2005年度	フットサル部顧問(2000年度～2001年度はフットサル同好会顧問)	2005年度～2006年度	バスケットボール部顧問	2006年度～2008年度	英語検定部顧問(2005年～2006年は英検同好会顧問)	2009年度～現在に至る(現在休部)	英語・日本語検定部顧問(旧英語研究会顧問：'93年度～'96年度)	2008年度～2010年度	海外研修(ガム インターンシップ)の事前研修(英語)と手続き	2011年度、2015年度～2018年度	海外研修の事前研修(英語研修)	2014年度～2018年度	海外研修の事前研修(危機管理講座)
1993年度～現在に至る	TOEFL、TOEIC、英語検定の受験者に対する指導																						
1997年度～1998年度、2021年度、2022年度	処分学生の指導																						
1998年度～1999年度	剣道部顧問(1997年度～1998年度は剣道同好会顧問)																						
1999年度夏季	カナダ、フレイザーバレー州立大学への海外研修 指導・引率																						
2001年度～2005年度	フットサル部顧問(2000年度～2001年度はフットサル同好会顧問)																						
2005年度～2006年度	バスケットボール部顧問																						
2006年度～2008年度	英語検定部顧問(2005年～2006年は英検同好会顧問)																						
2009年度～現在に至る(現在休部)	英語・日本語検定部顧問(旧英語研究会顧問：'93年度～'96年度)																						
2008年度～2010年度	海外研修(ガム インターンシップ)の事前研修(英語)と手続き																						
2011年度、2015年度～2018年度	海外研修の事前研修(英語研修)																						
2014年度～2018年度	海外研修の事前研修(危機管理講座)																						
6 その他 (主要5件以内)	<table border="1"> <tr> <td>1994年冬季(a)</td><td>(a)深川市民公開講座(会場：本学パソコン室)「題：パソコンの利用法」</td></tr> <tr> <td>2016年2月(b)</td><td>(b)深川市民公開講座(会場：深川市中央公民館)「題：英語の語源に学ぶ」</td></tr> <tr> <td>2022年2月(c)</td><td>(c)深川市民公開講座(会場：本学101教室)「題：英語の語源と言語の変化」</td></tr> <tr> <td>2010年～2018年(毎年6月)</td><td>深川国際交流協会主催インターナショナルデー(留学生の出し物準備や司会等)</td></tr> <tr> <td>2015年～2018年(毎年10月)</td><td>国際文化パーティー(留学生の国際交流事業)深川国際交流協会主催</td></tr> <tr> <td>2015年～2016年(毎年8月～9月)</td><td>拓殖大学北海道短期大学やさしい語学公開講座(英会話)</td></tr> <tr> <td>2017年(9月～10月)</td><td>多文化共生力を身に付けるための異文化交流(本学学生と地域住民との双方の交流)</td></tr> </table>	1994年冬季(a)	(a)深川市民公開講座(会場：本学パソコン室)「題：パソコンの利用法」	2016年2月(b)	(b)深川市民公開講座(会場：深川市中央公民館)「題：英語の語源に学ぶ」	2022年2月(c)	(c)深川市民公開講座(会場：本学101教室)「題：英語の語源と言語の変化」	2010年～2018年(毎年6月)	深川国際交流協会主催インターナショナルデー(留学生の出し物準備や司会等)	2015年～2018年(毎年10月)	国際文化パーティー(留学生の国際交流事業)深川国際交流協会主催	2015年～2016年(毎年8月～9月)	拓殖大学北海道短期大学やさしい語学公開講座(英会話)	2017年(9月～10月)	多文化共生力を身に付けるための異文化交流(本学学生と地域住民との双方の交流)								
1994年冬季(a)	(a)深川市民公開講座(会場：本学パソコン室)「題：パソコンの利用法」																						
2016年2月(b)	(b)深川市民公開講座(会場：深川市中央公民館)「題：英語の語源に学ぶ」																						
2022年2月(c)	(c)深川市民公開講座(会場：本学101教室)「題：英語の語源と言語の変化」																						
2010年～2018年(毎年6月)	深川国際交流協会主催インターナショナルデー(留学生の出し物準備や司会等)																						
2015年～2018年(毎年10月)	国際文化パーティー(留学生の国際交流事業)深川国際交流協会主催																						
2015年～2016年(毎年8月～9月)	拓殖大学北海道短期大学やさしい語学公開講座(英会話)																						
2017年(9月～10月)	多文化共生力を身に付けるための異文化交流(本学学生と地域住民との双方の交流)																						
研 究 業 績																							
1 研究分野・活動 (記述式：350字以内)	研究分野：「英語の歴史的発達に関する考察」 英語の語順や語彙の歴史的発達に関しては世界中の学者によって約200年の学問的な蓄積があり、様々な形で研究がなされてきた。これらの取り組みに基づいてこれまで特に語順と分野ごとの語彙に関する歴史的な発達について研究を重ねてきた。この英語史に関する研究における語彙論といったあまりこれまで重視されてこなかったものである。一見単純に見えるものの、言語の根本的な分野に属するものであり、言語に対して理解を深めるべく重要な研究分野であると考え今後も研究を続けていく。																						

2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む) (記述式：350字以内)	前述の研究分野の課題を達成するためにさらに様々な分野の語彙についての調査及び分析を今後に行っていく予定である。現在は、古英語、中英語、現代英語によって書かれた聖書の福音書ヨハネ伝の中の同一箇所語彙を比較している。その際に古英語の語彙に基軸を置き、中英語や現代英語において語彙がどのように変化したのかという点に関して調査を行っている。 今後は、こうした語彙のOED（オックスフォード英語辞典）における引用例を参照にして分析を行っていく予定である。特にラテン語から現代英語に至る語彙の意味の変遷に着目していくために、現在、調査・作業を行っている。その際に特にラテン語にて使用されていた時の意味のその後の状況の変化の有無と変化の状況について調査を進めていく。			
3 研究助成等 (主要5件程度)	(1) 文部科学省科学研究費 ありません。 (2) 学内 1996年度 大学研究所 個人研究助成費 (B) 1997年度 大学研究所 個人研究助成費 (B) 1998年度 大学研究所 個人研究助成費 (B) 1999年度 大学研究所 個人研究助成費 (B) 2000年度 大学研究所 個人研究助成費 (B) (3) 学外 ありません。 			
4 資格・特許等 (主要3件以内)	ありません。 			
著書、学術論文、作品等の名称 (主要15件以内)	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称	要 約
(著書) 総合英語へのマルチアクセス	共著	1993年2月	三修社	p. 67～p. 78 英字新聞における時事問題を題材にした英語学習教材を作成した。題材は「環境問題-電気自動車の実用化に関して」、「健康問題-タバコの害による死亡者数の増加について」「エイズ-エイズによる死亡者数の増加について」である。こうした題材に関する読解教材に加えて、ヒアリング教材、語彙選択問題、重要語句練習問題を付け加えた総合教材を製作した。
現代を読む総合英語	共著	1997年2月	三修社	p. 24～p. 29, p. 66～p. 71 英字新聞における時事問題を題材にした英語学習教材を作成した。題材は「偽札発見器-アメリカ合衆国における偽札対策について」「日本における銃器犯罪対策について」である。こうした題材に関する読解教材に加えて、ヒアリング教材、語彙選択問題、重要語句練習問題を付け加えた総合教材を製作した。
(学術論文) Word Order in the Gospel according to St. John in the West Saxon and Wycliff Bibles	単著	1993年11月	Lingua, vol. 11.	p. 54～p. 64 古英語と中英語の三分における語順を分析するためにウェストサクソン福音書とウィクリフ聖書の主語、述語、目的語の語順を比較した。
Syntactic differences between MS. Corp. and A of the West-Saxon Gospel with Special Reference to Word Order of Verb and Other Elements	単著	1990年11月	Lingua, vol. 12.	p. 64～p. 75 古英語の重要な文献資料であるウェストサクソン福音書は6種類が現存する。それらの間には統語的な差異が見出される。これらの差異は、書かれた年代の差によるものとされており、調査・分析を行い、検証を行った。

古英語における主語・目的語の標示に関する一考察	共著	1990年11月	経営情報科学 第3巻 第2号	p. 163～p. 169 古英語福音書のヨハネ伝を調査資料として、古英語における語順(word order)と格標示(case marking)について調査・分析を行った。
英語の否定接頭辞に関する一考察	単著	1994年2月	拓殖大学論集 人文・自然科学第212号	p. 71～p. 88 英語の否定接頭辞をゲルマン語系の否定接頭辞(un, mis)とラテン語系の否定接頭辞(in, non, dis)に分類して現代英語における使用状況を調査・分析をした。
否定接頭辞に関する一考察(2)ータイム誌とニューズウィーク誌を中心として	単著	1996年2月	拓殖大学論集 人文・自然科学218号	p. 27～p. 45 タイム誌とニューズウィーク誌を調査資料として現代英語における否定接頭辞の使用状況を調査・分析をした。これまでの主要な否定接頭辞の研究書であるMarchand, Hans (1960)において指摘されている点を検証した。
英語のhybridに関する一考察	単著	1997年12月	語学研究 第86号	p. 91～p. 108 英語における起源の異なった語・誤基と接辞の結合による新生語であるhybrid(混成語)について、名詞形成接尾辞の-mentによるものを調査・分析を行った。
英語の食物に関する語彙についての一考察	単著	1998年9月	語学研究 第88号	p. 189～p. 209 古英語、中英語、現代英語における食物を表す名詞について以下の5点に分類して調査・分析を行った。①語彙借入がされ古英語の語彙が廃用となったもの②語彙借入がされ古英語の語彙が意味変化したもの③語彙借入がされていないが古英語の語彙が廃用になったもの④語彙借入がされていないが古英語の語彙が意味変化したもの⑤いくつかの要因が重なっているもの。
英語の抽象語彙の変遷に関する一考察	単著	1999年3月	人文・自然・人間科学研究 2号	p. 67～p. 86 英語の抽象的な意味を持つ語彙について名詞、形容詞、動詞の38語を古英語、中英語、現代英語にかけての語彙変化の調査・分析を行った。 その結果、22語は語彙が変化しており、16語は語彙が変化していなかった。変化したものの中ではゲルマン語系語彙がラテン語系語彙に交替したものが一方で、ゲルマン語系語彙が他のゲルマン語系語彙に交替したものもあり、語彙変化の状況の複雑さを示していることが明らかになった。
英語の動物を表す語彙の変遷に関する一考察	単著	2000年9月	語学研究 第94号	p. 1～p. 22 古英語、中英語、現代英語における動物を表す名詞について調査・分析を行った。その中で語彙に変化のあったものについて以下の4点について分類して調査・分析を行った。①古英語から意味変化した語彙②古ノルド語に由来する語彙③古フランス語に由来する語彙④語源不詳の語彙。

英語の自然・天体を表す本来語の変遷に関する一考察	単著	2008年12月	語学研究 第119号	p. 67～p. 94 古英語、中英語、現代英語における自然・天体を表す本来語の名詞について調査・分析を行った。その中で語彙に変化のあったものについて分類して調査・分析を行った。その結果、以下の4種類があった。①古英語の語彙は、中英語では、使用されず、別の語が使用され現代英語でも継続して使用されている。②古英語の語彙が中英語でも使用された。しかし現代英語では、別の語が使用されている。③古英語の語彙が中英語では、されず別の語が使用され、その後の現代英語では、再度古英語の語彙が使用されている。④古英語の語彙が中英語、現代英語でも使用されず、それぞれ別の語彙が使用されている。
(その他)				
A collective inquiry into The Owl and Nightingale	共著	1991年2月	英文学 第67号	p. 221～p. 223 初期中英語の論争詩「The Owl and the Nightingale」における合成語を現代英語訳と現代ドイツ語訳と比較した場合の語形成について比較をした。比較した語形成の種類は①「名詞＋名詞」②「否定接頭辞UN＋形容詞」の2種類である。
英語の語形成－否定接頭辞 un を中心にして	単著	1992年3月	国士舘大学教養論集 第34号	p. 115 (国士舘大学 平成3年度教養学会研究発表要旨) 古英語における否定接頭辞 un, mis, wan について初期中英語の論争詩「The Owl and the Nightingale」を調査資料として否定接頭辞の語形成について調査・分析を行った。
古英語福音書ヨハネ伝の語彙	単著	2007年3月	語学研究114号	古英語福音書ヨハネ伝における語彙を中英語や現代英語の同一箇所語彙を列挙してまとめた。
『創世記 (Liber Genesis) 新ブルガータ版 (Nova Vulgata Editio)』邦訳 (1)	共著	2018年9月	北星学園大学文学部北星論集 /Hokusei Review, the School of Humanities, 56(1)	p. 43-p. 63 ラテン語聖書新ブルガータ版の創世記の邦訳を行った。
『創世記 (Liber Genesis) 新ブルガータ版 (Nova Vulgata Editio)』邦訳 (2)	共著	2019年9月	北星学園大学文学部北星論集 /Hokusei Review, the School of Humanities, 57(1),	p.79-p.84 ラテン語聖書新ブルガータ版の創世記の邦訳を行った。
『創世記 (Liber Genesis) 新ブルガータ版 (Nova Vulgata Editio)』邦訳 (3)	共著	2020年9月	北星学園大学文学部北星論集 /Hokusei Review, the School of Humanities, 58(1)	p.51-p.62 ラテン語聖書新ブルガータ版の創世記の邦訳を行った。
『創世記 (Liber Genesis) 新ブルガータ版 (Nova Vulgata Editio)』邦訳 (4)	共著	2021年9月	北星学園大学文学部北星論集/Hokusei Review, the School of Humanities,59(1)	p.25-p.32 ラテン語聖書新ブルガータ版の創世記の邦訳を行った。
研究業績 (過去3カ年分)				国際的活動の有無 社会的活動の有無
著作数	論文数	学会等発表数	その他	
0	0	0	1	

学 内 運 営 業 績		
1 役職、各種委員会等 (主要10件程度)	1993年～1996年	入試委員会委員
	1997年～2001年, 2009～2011年	学生委員会委員(2014年～2015年)
	1998年～2001年	ネットワーク管理運営委員会委員
	2000年～2003年, 2006年～2008年	地域・国際交流委員会委員
	2002年～2007年, 2008年～2009年	教務委員会委員
	2010年～2015年	地域・国際交流委員会委員
	2012年～2013年, 2023年～2024年	入試広報委員会委員(2012年～2013年), 広報委員会委員(2023年～2024年)
	2016年～2019年	学生・地域国際交流委員会委員
	2019年～2023年	図書委員
	2020年～2022年	学生・地域国際交流委員会委員
学 外 活 動 業 績		
1 本学以外の機関（公 的機関・民間団体等） を通しての活動 (主要10件程度)	1993年11月	深川市英語スピーチコンテスト 審査員
	2011年4月～2012年3月	深川市国際交流協会理事
	2012年4月～2019年3月	深川市国際交流協会会員
	2019年4月～現在に至る	札幌国際プラザ外国語ボランティア
2 学会・学術団体等の 活動 (主要10件程度)	1988年4月～2007年3月	早稲田大学英語学会 会員
	1989年6月～1993年3月	日本中世英語英文学会 会員
	1989年12月～1995年	早稲田大学英語英文学会 会員
	1990年12月～現在に至る	早稲田大学英文学会 会員
	1991年6月～1994年3月	近代英語協会 会員
	1994年4月～2000年3月	英語語法文法学会 会員
	1997年9月～現在に至る	日本実用英語学会 会員
	2005年6月～現在に至る	日本英文学会 会員